

曾祖父から私に 私から未来へ

福島県農業総合センター農業短期大学校 畜産学科 酪農専攻 1年 大和田 光熙

私の家は、福島県浜通りに位置するいわき市の四ツ倉町という所です。5月下旬から7月上旬にかけてはウミガメが産卵をしに町の砂浜に来ます。ウミガメが産卵をして海に帰ったあとには、まるで小さなキャタピラーが動いたような跡が残っています。

この神秘的な光景がああ震災で跡形もなく消え去ってしまいました。

私の家族は全員無事でしたが、南相馬にいる曾祖父が亡くなってしまいました。

曾祖父は生前、乳牛を飼っており、よく遊びに行っては生乳を使った調理をしていました。しかし、飼っていた乳牛は震災時の津波に流されてしまいました。

ですが、曾祖父は私たちに希望を託してくれました。なんと、奇跡的に二頭の牛が生き残っていたのです。

私は、曾祖父が最後まで諦めずに守り抜いた二頭の乳牛を受け継いで曾祖父の意思を受け継ぎたいと思いました。

しかし、当時私は水産高校に通っており、このまま高校を卒業しても乳牛の管理はできないと思い、農業短期大学校への入学を決意しました。

曾祖父が乳牛を飼ってはいましたが、搾乳など牛の世話をしたことがなかったので、入学当初は何度も挫けそうになりました。

ですが、曾祖父が残してくれた乳牛を飼育し繁殖するために日々の専攻実習を頑張りました。

やがて、学校の実習だけでは物足りなくなり、学校の近くの伊藤さんという酪農家さんの所で、アルバイトを始めました。伊藤さんの家では、学校で使用している機械とは全然違って戸惑いましたが、アルバイトに行くたびに仕事を覚え、今では一人で作業ができるようになりました。最近では、実習やアルバイトに行くのが楽しみでしかたありません。

そんなある日、専攻実習している中で大変珍しい病気が発生しました。それは、子宮捻転という出産の際に発生する牛の病気です。

この病気は、言葉どおり子宮が捻じれてしまう病気で、子宮が捻じれてしまうと胎仔が外に出てくることができません。原因としては、寝ている親牛が、起き上がる際に胎仔が大きすぎるためにその重さで、捻じれてしまうそうです。この子宮捻転を治すための処置は、牛を横に倒して子宮が捻じれている方向に牛を転がすことです。この処置を来てもらった獣医さんと一緒に学科総出でやりましたが、捻転は治らず帝王切開をすることになりました。牛の帝王切開は見ていてあまり気持ちのいいものではありませんでした。結局、帝王切開で出てきた子牛もすでに死んでいました。

この出産は自分にとって初めて立ち会う出産だったので、ものすごく楽しみにしていました。それだけに、この結果はとても悲しく残念な結果でした。その後の実習は、とても辛く牛をまともに見られませんでした。

その一週間ほど後、別の牛が子牛を出産しました。その牛は無事にこの世に生を受けることができました。「さとみ」と名付けられたその子牛は、とても人懐っこく、近づいていくとぺろぺろと服や手を舐めてきたり、顔をこすりつけてきたりします。その可愛らしい姿を見てみると、励まされ、牛のことがもっと好きになりました。今は、この貴重な体験を忘れることなく、このような病気の発生を防ぐために日々の管理作業を見直しています。

ほかにも、福島の現状について考えるようになりました。

現在の福島を取り巻く環境は非常に悪いと思います。土地の減少、後継者不足、放射性物質による風評被害、円安、更には、TPP加盟による問題があります。TPP問題で一番深刻なのは、海外の安価な輸入乳製品を使用した加工乳、乳飲料、発酵乳、乳酸菌飲料等が製造され、生乳100%使用の牛乳、成分調整牛乳の市場の一部がこれらの製品に置き換わってしまうことです。また、チーズについては、プロセスチーズの製造は残るものの、プロセスチーズ原料を含めた国産ナチュラルチーズのほとんどが輸入品に置き換わるため、北海道の大規模チーズ工場のほとんどが操業を停止してしまいます。北海道の乳製品工場の操業停止により、国内競争力の高い北海道生乳がフレッシュな飲用牛乳市場を席卷し、都府県の酪農・乳業は壊滅的な影響を受ける等の影響が予測されます。

円安では、牛の飼料となるトウモロコシの価格高騰が問題となっています。トウモロコシはでんぷん質が豊富で牛には欠かせない、飼料のひとつです。しかし、現在はトウモロコシの七割はアメリカから輸入をしています。

なぜ、トウモロコシの価格が高騰するのか私は疑問に思いました。この疑問は簡単に解決しました。なぜなら、アメリカではバイオ燃料が普及されており、トウモロコシもその原料として使われていたからです。確かにバイオ燃料は地球環境に優しいですが、日本の畜産業界にとってみれば優しくありません。

そして、放射性物質による問題です。被害を受けたのは人間だけではありません。それは農業全体です。人間が生きるために必要な食べ物が放射能の被害をうけてしまったのです。

畜産農家の場合は、基準値以上の放射性物質を含んだ牛は出荷することができません。

一番問題になったのは、牛が食べる稲わらです。宮城県や福島県産の稲わらには放射性物質が含まれており、それを食べた牛は放射性物質を体内に吸収してしまいます。国や県からの対応がなかった畜産農家では、知らずに稲わらを与えてしまい、放射性物質を含んでしまった牛を出荷してしまいました。その影響で出荷することが出来なかった農家もいます。これが原因で農業を辞めてしまった農家がたくさんいます。福島県産の牛肉は

どんどん低迷しましたし、未だ回復していません。

国や県はもっと迅速に対応すべきだったと思います。

現在は放射能検査が徹底されてきていますが、いまだに福島県産の農産物は売れ残ってしまって、消費者に十分にその安全性が伝わっていません。福島県産の農産物は他の県より高い水準で検査し出荷しているのもっともって消費者に対してアピールして欲しいです。まず消費者の不安を和らげることが先決です。また、放射能検査に引っかかってしまった農家には保証をすべきだと思います。このようなことは、現在行われていますがまだまだだと思います。農家一人一人の声を聞くのは大変でしょうが、被害を受けた農家を集めてどのように対処すべきかを考えたらいいと思います。また、私自身もこのような復興活動に積極的に参加していきたいと思っています。

私はこの震災で亡くなってしまった曾祖父や農業を辞めるしかなかった人たちの分まで農業短大で学んで将来に繋げたいと思います。

高品質な生乳を生産して次世代の農業を担う子供たちに農業の素晴らしさを伝え発展させていきたいです。曾祖父が命を懸けて守った二頭の乳牛を飼育し、曾祖父の意思を継ぎたいと思います。また、これからの福島県の農産物を盛り上げるために活躍し、福島県産の商品の安全性が確立された環境を作りあげていきたいです。まだまだ時間はかかりますが、必ず叶えたいです。
